

## 平成15年度第4回県民活動審議会の概要について

### 1 開催日時・場所

平成16年2月27日(金) 14:00~16:10 山口県庁共用第4会議室(4F)

### 2 出席者

委員 樋口会長 横田副会長 安藤委員 石川委員 伊妻委員 蔵重委員  
酒井委員 高本委員 名和田委員 西山委員 平田委員 船崎委員  
(18名中12名出席)

県 環境生活部次長、県民生活課長、県民活動推進室長ほか職員4名

オブザーバー 「やまぐち県民活動きらめき財団」藤屋副理事長

### 3 概要

#### (1) 会議概要

- ・「平成16年度県民活動促進期間の設定について」「県民活動団体との協働に関するガイドブックの作成について」に関して事務局から説明を行い、委員から意見を聴取。

#### (2) 主な意見等

##### 県民活動促進期間の設定について

- ・平成16年度は、10月1日から11月14日とすることで審議会了解。

##### (個別意見)

- ・県民活動ボランティアフェスティバルは、例年11月に実施しているのか。  
準備、他の行事との競合、講師日程調整等の関係から10月中の実施は難しく例年11月中旬に実施している。
- ・合併の流れの中で地域の分権が非常に重要となり、県民活動団体はその担い手となるだろう。16年度だけのことではないが、期間を設定して促進施策を進める上では、その点も考慮して内容を充実してほしい。
- ・県民活動パワーアップ賞は県民への啓発効果も大きいと思うので、マスメディアや広報紙をもっと活用して県民へのPRを十分行ってほしい。
- ・県民活動ボランティアフェスティバルというネーミングは馴染みにくいのではないかと。
- ・県民活動促進キャンペーンはきらら博の余韻が感じられるようなネーミング(あるいはキャッチコピー、キャッチフレーズ)にしたらどうか。
- ・県民や県民活動団体に参加する行事がこの時期に集中する。県が主催者である場合は開催日の調整をして参加しやすくしてほしい。

## 協働に関するガイドブックについて

- ・全体としては、よくまとまっているという感想

### (個別意見)

- ・基本的な考え方の中で「社会に根付くまでの間」とあるが、根付いた後は協働は必要ないのか。
- ・県民活動団体間のネットワークというのは何を意味するのか。ネットワーク事態が大事なのか、ネットワークに蓄積されたノウハウを生かせるということか。
- ・概要版の「      を教えてもらえますか」という表現はあまりよくない。もう少し工夫をした方がよい。
- ・「新しい雇用の受け皿」より「発掘」とか「場」という表現の方がよくないか。
- ・協働コーディネーターの役割は重要であるが、支援センターがコーディネーターの役目を果たすのなら、県、きらめき財団との関係はどうなるのか。また、どのようにしてコーディネーターを育成していくのか。
- ・協働で重要なのは県民の発信しているシグナルをうまくキャッチできる職員が育つことである。そうした職員が本当に活動できるようすることが大事である。
- ・県職員も県民活動に参加することが理解につながる。参加の奨励が必要である。
- ・公募提案事業を選定するときの審査員をどのように選ぶのがよいかを今後の課題として考えていく必要がある。
- ・16年度新規事業に協働事業が少ないのではないかと。ガイドブックはできるが、具体的事業を今後どうやって増やしていくのか。
- ・委託契約については、国土交通省が積極的に検討している。参考にしてはどうか。国のように省庁横断型のNPO関連予算一覧を県レベルでも作成し、NPO団体に公開すれば協働にも取り組みやすいのではないかと。